

分娩料、分娩介助料、新生児管理保育料の料金について

国立循環器病研究センターにおける、分娩料、分娩介助料および新生児管理保育料等(自費負担をお願いしています)につきましては、下記のとおりとなります。

分娩料・分娩介助料	分娩時間		料金(1児あたり)	
	平日	時間内 8:30~17:14	360,000円	非課税
		時間外 17:15~21:59、6:00~8:29、土曜日の深夜以外	380,000円	
		深夜 22:00~5:59	400,000円	
休日	日・祝日および年末年始			
<p>※無痛分娩麻酔を実施する場合、上記料金に150,000円の加算となります。</p> <p>※無痛分娩に係る麻酔科外来の診察料金は、1回あたり5,000円です。</p> <p>※出産に関する医療費は原則、保険適用外の自費負担となります。</p> <p>※上記分娩料・分娩介助料のほか、入院基本料、検査・薬剤料、食事代などが別途かかります。</p> <p>※帝王切開や疾患を伴う出産などの場合、入院基本料は保険適用となります。窓口で保険証、限度額適用認定証(窓口負担が高額になることがあるため)の提示を必ずお願いいたします(分娩料は別途かかります)。</p> <p>※分娩料には「産科医療補償制度」掛け金12,000円を含みます。従いまして、当該制度の対象外である22週未満分娩の場合、上記より12,000円の減額となります。</p> <p>※多胎分娩の場合、上記分娩料×分娩児数の適用となります。</p> <p>※プロウペスを使用した場合、上記料金に20,000円の加算となります。</p>				

新生児入院	入院
<ol style="list-style-type: none"> 生まれた赤ちゃんに入院加療が必要となった場合、保険適用となりますので、保険証、医療証等がお手元に届いたらご提示ください。 上記以外の場合、生まれた赤ちゃんについては新生児管理保育料(自費)として出産日は30,000円、2日目以降は1日あたり15,000円を負担していただきます。※新生児管理保育料には、出生時の処置料、一般的な検査料、赤ちゃんのベッド代、お世話代並びにミルク代などを含みます。 ビタミンK欠乏性出血症の予防のために、ケイツーシロップを投与します。入院中から投与を開始して、退院後の分は退院時にまとめてお渡します。薬剤料(自費)として1,100円(課税)を負担していただきます。 	

令和7年9月

分娩にかかる費用について

当センターの分娩にかかる費用は、入院日数や個々の状況によって異なるため、概算とお考えください。

出産育児一時金の直接支払制度をご利用いただいた場合、ご本人様の負担は分娩費用の総額から50万円を引いた額となります。

分娩の種類	概算額	ご本人負担額 (出産育児一時金を 差し引いた額)
経膣分娩(自費入院)	約80万円～95万円	約30万円～45万円
経膣分娩(保険適用)	約60万円～85万円	約10万円～35万円
帝王切開	約60万円～85万円	約10万円～35万円

無痛分娩を希望される場合(帝王切開以外)、上記金額に15万円が加算されます。

・概算額は、平均的な入院(5～7日間)をもとに算出した金額です。分娩料・分娩介助料、赤ちゃんが生まれた後の新生児管理保育料(自費:出産日は30,000円、2日目以降は1日あたり15,000円)を含みます。

※新生児管理保育料には、出生時の処置料、一般的な検査料、赤ちゃんのベッド代、お世話代並びにミルク代などを含みます。

・新生児が医学的理由により入院加療が必要となった場合は、新生児管理保育料はかかりません。

令和7年9月